

様式2

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

学校名 静岡県立伊豆総合高等学校

校長名 有馬 祥哲



- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

1 実践テーマ	【 I、II、III、IV、V 】
2 実施対象者	全校生徒【659人】を対象
3 展開の形式	(1) 学校における活動 1 教科名（保健体育科・総合的な学習の時間） 2 行事名（パラリンピックアスリートの講演会） 3 その他（伊豆市等からの製作物依頼に対する協力 等） (2) 地域における活動 1 イベント名（修善寺駅周辺での大掃除）
4 目標 (ねらい)	地域との連携を推進する本校の教育活動をより活発に行うために、地元（伊豆市）開催のオリンピック・パラリンピック（特に自転車競技）にかかわる教育活動を取り入れることにより、生徒がオリンピック・パラリンピックを身近に感じ、一人でも多くの生徒がオリンピック・パラリンピックに参画することを期待する。
5 取組内容	○【保健体育科】 ①1、2年生保健体育科の授業 ・授業の単元内容に応じて、授業の中でオリンピック・パラリンピックに関連した話題を取入れて実施。 ・夏季、冬季オリンピック・パラリンピックの実施競技をグループごとに考え、クラス内で発表し、実施競技についての学習を実施。 ②2、3年生選択授業「ライフスポーツ」 ・資料映像を見て、オリンピック・パラリンピックの歴史、精神等を理解し、実施競技について発表し合う等の学習を実施。 ③3年生選択授業「スポーツⅡ」 ・オリンピック・パラリンピックの歴史、バドミントン・テニス・卓球のオリンピックでの日本選手の活躍についての学習をし、各学期の筆記試験に出題。 ④平成30年度スポーツ庁委託事業「スポーツの価値を基盤とした教育」の実施協力に向けた企画立案 ・2、3年生のライフスポーツ選択者がサイクルスポーツセンターにおいて実施している自転車競技の授業を来年度も継続し、上記委託事業の内容にあわせた取り組みとなるよう準備。

○【総合学科】

①2、3年生総合的な学習の時間での授業

(2年生)

- ・「オリンピック・パラリンピックを知ろう」というテーマで調べ学習を計4時間実施。
- ・3年次の「わたしたちの作るオリンピック・パラリンピック」のプロジェクト学習につなげるための情報収集としての位置づけ。
- ・「主体的、積極的な社会参画」を意識した継続的な指導を実施。

(3年生)

- ・オリンピック・パラリンピックレポートの作成。
オリンピック・パラリンピック競技の中から、興味のある競技を各自で選び、調査テーマを設定してパソコン、図書等を活用した調べ学習を実施。

○【オリンピック・パラリンピックアスリートによる講演会】

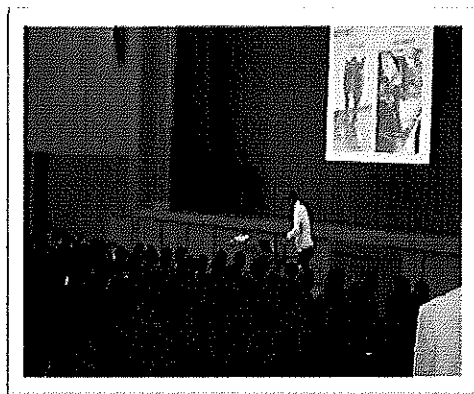
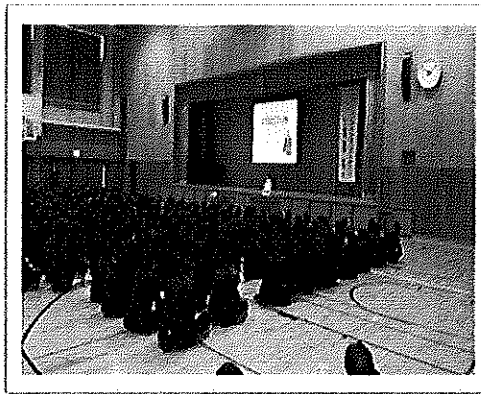
①講演会の実施

期日：12月19日（火）10時から11時

講師：藤田 征樹（ふじた まさき）

※パラリンピック自転車競技日本代表

演題『2020パラリンピックに向かって』

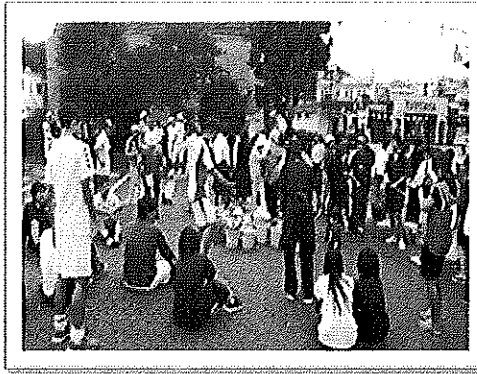


(生徒の感想：一部抜粋)

- ・障害のある人のことを「かわいそう」とか思うことが差別になってしまうから、同じように接していきたいと思った。「かわいそう」でなく「頑張っているんだな」と思うようになりました。人間はみんな同じだと考えました。
- ・義足の方々がこれだけ頑張っているのだから、自分たちはもっと頑張らなくてはいけないと思った。パラリンピックを応援したいと思いました。
- ・どんな障害を負っても考え方や心の持ち方次第で人の生き方は変えられることがわかった。
- ・これから自分にどんなことがあっても、絶対に後ろを向かず前へ進んでいきたいと思いました。
- ・人にはそれぞれの立場で自分を最大限に生かすための場所があること。それを必死に見つけることが大切だと思った。どんな状況でも前向きに生きることで見つけられることもわかった。
- ・自分が知らない世界に行くことが怖いのではなく、ただそのことを知らないだけだったこと、知ることができれば何も怖くなかったという話を聞いてとても考えさせられました。
- ・障害を負ったとしても恥ずかしいことはなく、胸を張って生きていけることを学んだ。
- ・障害を抱えた方の気持ちを理解できていなかったのも、とてもためになりました。

○【修善寺大掃除によるボランティア精神の促進】

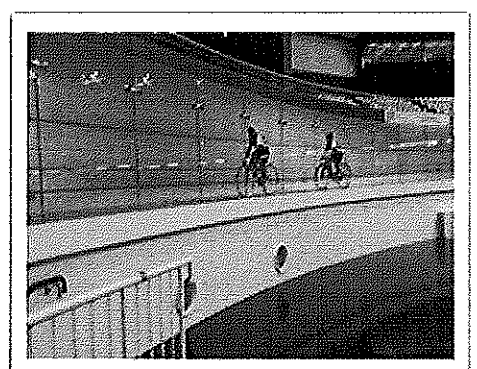
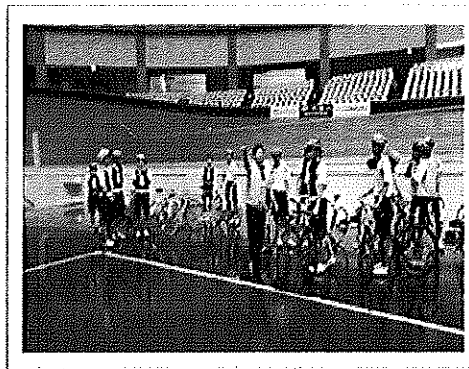
- ・毎月1回の実施 参加生徒人数：約500人 参加部活動数：15部活
- ・地域の方々と一緒に修善寺駅周辺のゴミ拾い及び環境整備を実施。



○【競輪学校、サイクルスポーツセンター（以下、「CSC」という。）との連携】

①2、3年ライフスポーツ選択者に対して、CSC（ベロドローム）を使用した、自転車競技に関する授業を実施。

- ・2年生（11月～12月、計10時間を実施）
- ・3年生（9月～10月、計10時間を実施）
- ・指導はCSC職員が担当、生徒の体型に合わせた競技用自転車、シューズ、ヘルメットを準備していただき、ベロドロームコース内で走行、タイム測定を実施。
- ・東京2020大会の会場であるベロドロームで練習を行う、オリンピック・パラリンピック日本代表選手や海外の代表選手の走行を間近に見ることも多くあり、本物に触れる機会としてとても充実した授業を実施。



○【工業科：電気電子、機械、建築】

①伊豆市等からの作品の製作依頼に対する協力

- ・修善寺駅構内に設置するプランターボックスの製作、設置
- ・修善寺駅構内に設置したカウントダウンボードの製作
- ・狩野川公園内に設置した伊豆サイクルボードの製作

②3年生課題研究におけるオリンピック・パラリンピックに関連したテーマの実施

- ・3DCADを使った自転車玩具の製作 等

○【その他】

- ・湧郷祭校内発表（展示の部）において、東京2020大会教育プログラムエンブレムをモザイクアートとして製作し校内に展示。
- ・図書室にオリンピック・パラリンピック関連の書籍や資料等をまとめて展示するための、オリパラコーナーを設置。

6 主な成果	・保健体育科、総合的な学習の時間を活用した取組みによって、2020年に迫ったオリンピック・パラリンピックに関して少しずつではあるが、行われる競技種目やその内容、また、地域におけるオリンピック・パラリンピックに向けた取組みについて興味や関心を持つことができた。 ・工業科の生徒にとっては、オリンピック・パラリンピックに関連した製作物の製作及び設置に関わることで、同様にオリンピック・パラリンピックを身近に感じ興味や関心を持つことができた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	・本年度は、保健体育科の授業を中心に取組みをスタートさせたが、新しい取組みに対する教員が負担を感じることをないように、従来の授業展開の中にオリンピック・パラリンピックに関する知識の習得につながる内容を取り入れることとした。 ・2年生、3年生の総合的な学習の時間では、教員が作成したパワーポイントを活用して伊豆市の取組みなど、地域の取組みについても生徒が関心を持てるように実施した。また、一人ひとりが興味のある競技について調べ学習を中心にレポートを作成するなどオリンピック・パラリンピックに対する関心を高めるとともに知識の習得にも繋げるように実施した。 ・パラリンピック選手の講演会を実施することで、非日常の世界観を感じることができるとともに、自分自身の生活に置き換えて考えることができるようにした。
8 主な課題等	・開催地市に所在する高校として、他校とは違った特色ある取組みを企画・立案することで、本校生徒に伊豆総合高校在学中にオリンピック・パラリンピックを体験できたことを誇りに感じることが出来るものとした。 ・本校におけるオリパラ教育への取組みが、教員の負担が増すように感じることに繋がらないように、校内での教員への周知の方法等を工夫することが必要である。
9 来年度以降の実施予定	◎ 教育活動としては、本年度実施した内容を継続して実施するとともに、パラリンピックに関する知識、理解、思考についての取組みを充実させる。また、以下に示す内容について検討し実施に向けた準備を進める。 ・各教科での、オリンピック・パラリンピックに向けた気運醸成につながる取組 ・湧郷祭（文化祭・体育祭）における気運醸成につながる取組 ・全国高校総体（インターハイ）伊豆地区推進校としてのオリパラにつながる取組 ・その他の取組